

研究・調査報告書

報告書番号	担当
441	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Relationship between alcohol consumption and control of hypertension among elderly Greeks. The Nemea primary care study. ギリシャ人高齢者におけるアルコール消費と高血圧管理の関係－ネメア・プライマリケア研究	
執筆者	
Skliros EA, Papadodima SA, Sotiropoulos A, Xipnitos C, Kollias A, Spiliopoulou CA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Hellenic J Cardiol. 2012 Jan;53(1):26-32.	
キーワード	
飲酒 アルコール消費 高齢者 高血圧	
要 旨	
目的： 本研究の目的は、飲酒と治療中の患者における血圧管理の関連を評価し、飲酒と高血圧の不適切な管理の間に因果関係がないか検証することである。	
方法： コリンチア、ペロポネサスのネメアと他の村に住む 637 人の高齢者を対象として、このうち 615 名を分析対象とした。平均年齢は 73.5±6.15 歳だった。参加者は特別な疫学質問票を記入し、予め決められたプロトコルに則って血圧を計測した。オッズ比が計算され、交絡因子に対して調整した。	
結果： 高血圧の有病率は全体で 69.1%、男性で 70.7%、女性で 67.0%であった。高血圧患者のうち 11%は高血圧であることを自覚していなかった。高血圧患者であることを自覚している者のうち 91.0%は治療を受けていた。高血圧治療中の者で 49.1%は収縮期血圧が 140 mmHg 未満で拡張期血圧が 90 mmHg 未満であった。重度の飲酒者(週 300 g 超)において高血圧管理との関連が確認できた。	
結論： ギリシャ人の高齢者において、重度の飲酒のみが高血圧の管理に関連があることが判明した。高齢者の高血圧におけるアルコール消費の果たす役割についてさらに調査を重ねる必要がある。	